

そういうときがいっとう楽しい

校長 武井 正明

先週金曜日の本稿で、今はなき科目「選択体育」に触れた。

それを読んだ内野中 本間謙一校長から「私も懐かしいですし、今でもはっきりと憶えています。あれはほんとに楽しかったですね～。今年、当時の岩室中の生徒が、新1年生の保護者となって挨拶に来てくれましたが、開口一番、ターゲットバードゴルフの話をしてきました。『当時の僕の生き甲斐でした』と言っていました」と、メッセージを戴いた。

もちろん私も、彼のことは自クラスの生徒ではなかったがよく憶えている。

真面目で成績超優秀、誠実温厚な生徒だった。確か彼は当時、歯科矯正をしている最中で、生徒会副会長をしていたと記憶している。彼は中学当時からゴルフ好きで、玄人好みの手嶋多一ファンだった。彼に「そっか『テジマ多一』が好きなのか」と言うと「『テジマ』です」と訂正されたのも憶えている。

また当時、NST チャリティゴルフというのがあった。9月の平日に夏季休暇を取って参加したら、たまたま優勝したことがある。それでテレビに映ったのだが、大っぴらに自慢するのも小恥ずかしかったので本間先生以外には黙っていた。

するとその後日、生徒玄関廊下の掃除で、彼が箒で掃きながら下を向いたまま「…武井先生、テレビ見ましたよ。優勝おめでとうございます…」小声で清掃監督の私に呟いてきた。私も下を向きながら小声で「ありがとな」シーッと人差し指を立てた。

すると彼も（だいじょうぶですよ、誰にも言いませんから）とばかり、私の眼を見てゆっくり頷く。私への敬意のようなものも伝わってきた。悪くない瞬間だった。

あれからもう30年。彼も今や中学1年生の父親となり、本間先生と再会を果たした。

選択体育が「生き甲斐」として記憶に残っているなんて!! もし彼と再会できたら、きっとターゲットバードゴルフのことだけでも話が尽きないだろう。

井上ひさしの小説で、中学の教科書にも載っている「握手」という作品がある。

作家になった主人公と死期を悟った恩師との最後の再会の話。その中で、バスの運転手として成長した教え子のバスに乗る思い出を語るルロイ先生が「そういうときがわたしにはいっとう楽しいのですね」と主人公にしみじみ語る…。

立派に成長した教え子と、当時の思い出を語り合う…こんな教師冥利に尽きる時はありません。

今の吉中生たちとの何気ない一日を、いつしか大人に成長したあなたが、ふとした瞬間に思い出してくれたなら、それはきっと私からあなたへのプレゼントとなる。

穂高くん元気か。君も親父か…会いたいな。